

解説

- a. ランソプラゾールは NSAID 投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制を目的として 1 回 15mg を 1 日 1 回経口投与することが効能・効果として認められている。よって、これが正解。
- b. メトクロプラミドは脳のドパミン D₂ 受容体を遮断することにより制吐作用を示し、セロトニン 5-HT₃ 受容体遮断作用の関与や 5-HT₄ 受容体刺激作用による 消化管運動促進作用も持つが、NSAID による潰瘍発生を予防する効果はない。
- c. ファモチジンやシメチジンは、H₂ 受容体に拮抗的に作用し、過度な胃酸分泌を抑える作用をもっているが、PPI ほど強力ではない。
- d. スルピリドは脳内のドパミン受容体に対して抑制作用があるので、抗精神薬としても用いられるが、消化管運動を亢進させ、消化管運動の低下などによる吐き気、胸やけ、食欲不振などを改善する作用も持つ抗潰瘍薬でもある。NSAID による消化性潰瘍の発生を予防する効果はない。
- e. レバミピドは胃粘膜保護薬の一つで、消化性潰瘍などに対して、胃粘液などの防御因子を増強することで胃腸粘膜保護作用などを持つが、NSAID による消化性潰瘍の発生を予防する効果はない。

参考文献

1. 日本消化器病学会ガイドライン 消化性潰瘍 第 5 章薬物性潰瘍 CQ5-4 潰瘍既往歴, 出血性潰瘍既往歴がある患者が NSAIDs を服用する場合, 再発予防はどうか?
<https://www.jsge.or.jp/guideline/guideline/pdf/syokasei2020.pdf#page=144>